

一関市産材を使用した市立花泉図書館の建築について

1 はじめに

一関市では、公共建築物等への地域材の利用を積極的に推進しており、花泉図書館の建築においても、建設検討委員会からの提言を受けて市産材を使用した木造施設とする基本方針で建築し、平成25年9月に開館しましたので、その地域材利用の取組みについて紹介します。

2 図書館の概要

施設は、木造平屋建て延べ床面積999㎡の花かごをイメージした斜交格子組(シヤコウツクミ)デザインの円筒形ホールが特徴で、太陽光発電、地中熱利用床暖房を利用するなど環境にも配慮した施設となっております。

また、全ての構造材に一関市産のカラマツ・スギを使用し、集成材・一般材合わせて427㎡を使用し建築されております。

3 地域材利用の取組み

地元の木材を利用するため、市から木材の発注を受けた森林組合が、市内に生育するスギ・カラマツを伐採し、製材所で委託加工した材を市に納品することとしました。

この材を市が建築施工業者に支給し、集成材については施工業者が加工施設に委託加工して建築されました。

地域材の調達にあたっては、集成材用ラミナに必要な径級の林分を確保するために、見込みよりも多くの伐採地が必要になったため、予定よりも時間を要しましたが、市の担当者と森林組合・木材加工施設関係者が連携を密にして施

工管理し、県が補助事業のスケジュールを調整しながら工事を進めることで、地域材を確実に利用できる取組みができました。

4 おわりに

木造公共施設への地域材の利用においては、特定産地の指定や発注期間内での木材の伐採・加工が難しいなどの課題がありますが、早めの木材の必要規格・数量の決定、伐採地確保や木材の加工・乾燥に要する時間を考慮した工期の設定などの取組みにより、他の施設でも地域材の利用が進むものと考えます。

今後は、花泉図書館を多くの市民にPRし、地域材を使用した木造建築の良さを実感していただきたいと思います。

